

上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査についての説明書

胃カメラ検査の実施について、以下の説明・注意事項をすべてお読みいただき別紙の同意書にご署名をお願いいたします。

【検査の目的】

★上部消化管（食道・胃・十二指腸）を観察し、がん・炎症・潰瘍などの病気の有無を確認します。

【検査前日】

★検査時に胃や十二指腸に食物が残っていると観察できず異常の有無がわかりませんので、禁食時間は守り、夕食は消化のよいものにしてください。

※ 糖尿病・肥満症治療で **GLP-1 受容体作動薬（オゼンピック、リベルサス、リキスミア、トルリシティ、ウゴービ、ピクトーザなど）** を使用している場合、胃内容物の排出を遅くする作用があり、検査時に胃に食物が残っていて観察困難となる人が多いという報告がありますので、特に注意してください。

★マニキュア(ネイルアートなど)は、検査中の安全を確認するモニターが誤作動を起こすので取り除いてください。

【検査当日】

★飲み薬の処方を受けている場合

《糖尿病薬以外》 食後を含む朝指示のものは当日朝7時までにコップ1杯程度の水で服用してください。

《糖尿病治療薬》 薬によって低血糖の危険がありますので、当日の使用については主治医に指示を受けてください。

★次の場合、検査が変更および中止となる場合があります。

- 風邪症状・鼻炎症状・咳、頭痛などの体調不良がある、けがや病気のため必要な体位を取れない
- 検査前の血圧が高い（目安として180/110mmHg以上）
- 体重が135kg以上（検査台に体重制限があるため検査不可）
- 妊娠中または妊娠の可能性がある方
- 麻酔薬（キシロカイン）のアレルギーがある、または疑わしい方
- 経鼻検査でお申し込みの方では、鼻腔が狭い（骨格・鼻粘膜のむくみなど）・鼻血が出やすい・出血傾向があると考えられる場合に医師の判断により経口検査に変更になることがあります。

★検査にかかる時間は通常5～10分程度、前処置などを合わせると胃カメラ処置室に入ってから30分ほどかかります。

- 入れ歯・口紅は検査前までに取り除いてください。
- 消泡剤を使用し胃の中をきれいにします。
- 局所麻酔薬を下記のように使います。
 - ・ 経口では喉に使用します。
 - ・ 経鼻では鼻の粘膜の腫れや充血を取る血管収縮薬を両方の鼻にスプレーしてから、麻酔薬を塗った細くて柔らかいチューブを鼻に挿入します。通りの良いほうの鼻から内視鏡を挿入します。

注） 喉や鼻の異和感や痛みを防ぐためですが、**麻酔薬アレルギーがあると使えませんので**

事前にお申し出ください。

裏面もご確認をお願いします

●鎮静剤（**当院にて使用経験のある方のみ**事前予約でご利用可能）を使用の場合

- ・検査後1時間ほどベッドでお休みいただきます。
- ・安全のため**当日検査後の車の運転は禁止**としておりますので、お車でご来院の場合にはお帰りの運転はお迎えをお願いします。（お迎えの方がいらっしゃるまでは車の鍵をお預かりします）
- ・翌日車を取りに来ていただく場合は、駐車料金が別途かかります。

★病理検査について

がんなどの治療が必要な病気を疑う異常所見があり検査医師が必要と判断した場合、異常部位の一部を採取して顕微鏡で観察する病理検査を行うことが可能です。

血が固まりにくくなるご病気（血小板減少症、肝硬変など）もしくは**お薬**（脂質異常・動脈硬化症治療・整形外科などで出ることあり）の**処方がある場合**、当院ドック・健診では**受診前に休薬していても病理検査は行いません**。

お薬については該当する代表的なものを下に載せていますのでご確認ください。

〔薬の例〕 ロトリガ・オメガ-3脂肪酸エチル・EPA・DHA・イコサペント酸エチル・エパデール・アンブラグ・エフィエント・クロピドグレル・ブラビックス・リマプロストアルファデクス・オバルモン・ペルサンチン・シロスタゾール・タケルダ・エリキュース・イグザレルト・リクシアナ・プラザキサ・バファリン・バイアスピリン・アスピリン・チクロピジン塩酸塩・ワーファリン・パナルジン・プレタールなど

※ 病理検査後に緊急処置が必要な出血を起こすことがまれにあります。検査終了後院外に出られてから出血を起こした場合、救急病院でない当院で止血を行うことは困難なためご理解のほどお願いいたします。

※ 病理検査を行った場合、検査当日の昼食・夕食は消化の良い柔らかいものとしてください。
また、検査当日の刺激物やアルコール類は禁止となります。

★検査終了後は局所麻酔薬の影響がなくなる1時間後から飲食が可能となります。

【偶発症について】

十分に注意を払って検査前処置・検査を行いますが、偶発症が発生することがあります。

- 内視鏡で粘膜がこすれることによる出血、鼻やのどの違和感・痛み
- 病理検査のための組織採取による出血
- 前処置の薬剤によるアレルギー反応（皮疹・血圧低下・呼吸苦など）や他の副作用
- 消化管穿孔
- その他、思いがけない容態の悪化

万が一緊急の事態が発生した場合は最善の対処をいたします。ただし、**やむなく処置（入院、手術を含む）が必要になった場合の医療費は受診者様のご負担となります**のでご了承ください。

なお、日本消化器内視鏡学会による第6回全国調査では、上部消化管内視鏡検査（病理検査実施を含む観察のみ）の偶発症発生頻度は0.007%です。なお、0.00013%ですが死亡の報告がありますので、万が一の事態のために問診票の緊急連絡先のご記入をお願いします。

以上の点をご理解いただいたうえで、別紙同意書にご署名をお願いいたします。

<< 検査の前に腹式呼吸の練習をお勧めします >>

心身の緊張が胃カメラ検査を辛くさせる原因のひとつになっています。

腹式呼吸は緊張を和らげるのに効果的で、胸式呼吸とは違い、首から離れた筋肉を使うので、喉や肩・胸が緊張しません。予約された日から当日まで、朝・夜30回ほど練習されると検査が楽に受けられます。